

編集後記

▼学校五日制が日本の学校にも導入されました。しかしさまざまな矛盾をかかえたままでのスタートです。矛盾の多くは、日本の「豊かさ」の本質をそのまま反映したものともしえそうです。

本号は、その「豊かさ」のなかでの子どもたちの実態を明らかにし、真の豊かさとは何かを求めて、二月に行った第六回にいがた県民教育研究所研究会での報告や討論を中心に編集しました。

▼予告しておりました久富善之氏の評論「新潟県教育界における『学閥』問題」は、都合で次号以降の掲載になります。

(片岡 弘)

▼正木健雄氏の「『豊かさ』のなかの子どもたち」は、日本の子どもの健康水準が世界最高になったといえるなかで、「豊かさ」がひき起こしている子どもからの問題を、豊富なデータを用いて説明しています。なかでもテレビと視力低下の関係が電磁波の影響「隠された公害」という指摘は大人にも衝撃的です。また大脳・前頭葉の発達にはど

のような遊びが必要かを明らかにしています。▼八木三男氏の「人権の国際化と日本の子どもたち」は、「子どもの権利条約」の批准を目前にして、学校や地域で検討すべき課題を提起しています。パネルディスカッション「豊かな国」の学校五日制の論点とあわせて検討していただければ幸いです。

(吉田武雄)

▼自分の携わったことに、何らかの反応が表れるのは楽しいことです。編集に携わったものに對する感想が届いたときの嬉しさは一入。編集者冥利とでも申しませうか。

▼にいがた県民教育研究所は何とすばらしい仕事をしておられることかと、心から(同誌三冊を通じて)感嘆いたしました。その副理事長のポストに先生がおられますことに、意義があると痛感いたしました。なお一九八六年春季号から、三〇号で完結されました「学閥」論があることを知りました。三輪定宣千葉大学教授の論文(三二一号)と、山住正己都立大学教授(三三三号)の論文も、関心をもって拝読しました。

▼水俣市にお住まいの藤野さんのお便りの一部です。目次と編集後期を先ず読んで、本文は後でじっくり、という方も多いときいていますので、敢えて引用しました。研究所、機

関誌などのご意見、ご感想をお寄せ頂ければ甚だ幸いです。
(若月又次郎)

にいがたの教育情報 No. 34

1993年4月20日発行

編集・発行 にいがた県民教育研究所
発行人 長崎 明
新潟市東中通 1-86 山崎ビル2F
〒951 電話 (025) 228-2924
振替口座・新潟 4-12332
印刷所 (有)中央印刷さあびす

本誌内容の無断転載を禁じます。